

第4学年 道徳学習指導案

平成20年7月25日(金)公開授業

場所 春日ふれあい文化センター

1 主 題 名 友達について考えよう 2 - (3) 信頼・助け合い

読み物資料：「カメの反省」作：さなともこ 絵：温品賢二
(『ファンタジーの宝石箱 vo.1』全日出版 2004.9 所収)

2 ね ら い 一輪の花を差し出すカメとそれを受け取るウサギの気持ちを話し合うことなどを通して、自他のよさとよさを表すものへの関心を高め、友達と互いに理解し、信頼し合おうとする意欲を養う。

3 資 料

この資料は、イソップ童話「ウサギとカメ」の続き物語として創作された掌編童話である。

寝ていたうさぎを起こさず勝ったことを後悔するカメは、再度、競走を申込む。今回こそ、絶対に負けられないウサギは、途中、寝ることなく早々とゴールし、なかなかやってこないカメを待つ。自分のペースでゴールインしたカメは、途中、道端で摘んだ一輪の花を「やっぱり、きみのほうがずっと早かったね」と差し出す。そして、すっかりしおれた花を喜んで受け取るウサギ。

勝負が終わった後、ウサギが身に付けていたストップウォッチとカメが身に付けていた万歩計、それぞれをのぞき見て、「すごーい！」と同時に声をあげる、という話である。

心が通じ合っていなかった二人が、二度目の競走で、互いのよさ(ウサギの足の速さ、カメの根気強さ)を認め合うとともに、それぞれのよさをストップウォッチや万歩計で客観的に捉えている。また、ウサギがカメを心配して待ったり、カメが花を贈ったりする行動もそれぞれのよさとして、さりげなく描かれている。友達として互いを理解し、信頼し合うことの大切さやそのために必要なこと(例えば、相手のよさを見付けたり、感じ取ったりすること等)を考えるのに相応しい資料である。

4 ねらいと学習内容

本時は、一人ひとりの子どもの友達観を広げる授業である。ねらいは、「友達と互いに理解し、信頼し合おうとする態度を養う」とした。

子どもたちは、「友達と互いに理解し、信頼し合う」ことが大切であることは、漠然と知っている。日頃、親や教師から言われているし、実生活においてそのよさも感じ取っているからである。

しかし、「友達と互いに理解し、信頼し合う」ためには、「自分のよいところ」や「友達のよいところ」について一層理解し、認め合うことが不可欠であること、また、「自分のよいところ」や「友達のよいところ」には、様々なもの(行動で示しやすいもの示しにくいもの、数値で表しやすいもの表しにくいもの、他の人から分かりやすいもの分かりにくいものなど)があることなどについては十分には自覚的でない。

そこで、本時の学習内容を次のように設定した。

互いのよさを知り、認め合うことが大切であることへの共感的な理解

数字で表せるよさや表せないよさ、行動で表しやすいよさや表しにくいよさなど様々なよさやよさの捉え方があることへの気付き

自他(特に友達)のよさを積極的に見付けていこうとする意欲

それらを踏まえて、一人ひとりの友達観の広がり

5 準備 場面絵 ワークシート

6 学習の展開

学習活動・内容	予想される児童の反応	教師の支援
1 友達や友達に対して感じていることを発表する。 ・価値への気付き (10) ・資料への関心	楽しくて親切な友達だよ。ときどきけんかもするな。いろいろな友達がいるよ。ウサギとカメで考えよう。	一人ひとりの友達観を自由に発表させ、板書上で整理することで、価値への関心を高める。
友達について、考えを深めよう。		
2 読み物資料を聞き、話し合う。(20)	カメもウサギも再び競走したいと思ってたんだね。	話し合い活性化へ向け、 ・ゴール場面
ゴールの場面で、ウサギとカメは互いにどんなことを考えていただろうか？		
<ul style="list-style-type: none"> ・カメの気持ち (相手の勝ちを祝福) ・ウサギの気持ち (友達を心配する気持ち) ・互いを理解し合うことの大切さ ・よさを認め合うことの大切さ 	カメはウサギの勝ちを祝うために花を渡したんだね。自分のよさは「あわてず、あせらず、…」だものね。ウサギもカメが無事か心配して待ち続けたんだね。互いに相手のよさを理解して、認め合えたね。	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の対比 ・自他の考えの異同に着目させる発問や問いかけを行い、板書上で明確にする。カメやウサギになりきって話し合わせ、心情の共感的な理解を図る。
「すごい！」と声をあげた後どんなことを話したでしょうか？		
<ul style="list-style-type: none"> ・自他のよさとよさを表す態度や行動(ものさし)への気付き ・よさの多様さ ・よさを表す態度や行動を積極的に見つけようとする事への関心 	時間の短さと歩数の多さに互いに感心したんだ。ウサギがカメを待っていたことやカメがウサギを祝福するのもよさだよ。友達のをよさを表すものにはいろいろあるんだね。	数字で表せるよさや表せないよさ、行動で表しやすいよさや表しにくいよさなど様々なよさやよさの捉え方があることに気付かせ、よさへの関心を高める。
3 自分や友達のよさについて考えたことを書き、発表する。(10) ・自他のよさ ・自分なりの友達観	君には、 なよさや のよさもあるよ。自分のよさは、 などところだけど、分かるかな？やっぱり友達はいいいねえ。	導入で出し合った友達について、「様々なよさ」を観点に再度捉え直す機会を保障し、友達観を広げる。
4 教師の話聞く。(5) ・友達観の広がり ・自他のよさを見付けようとする意欲の高まり	自分や友達のよさをもっといろいろ見つけていきたいなあ。そうしたら、もっともっと友達となかよくなれるだろうな。	よさの捉え方の多様さについて教師の体験や思いを話し、友達のよさを多様に見付けようとする気持ちを高める。